

OM report



全国に広がるOMソーラーの
施設建築を紹介

温もりに包まれた場所で
のびのびと育ててほしい。

そんな願いが込められた、
太陽と森の保育園です。

千葉県流山市 えどがわ森の保育園





園舎前に植えた植栽が大きく育ち、森のよう。



ちば山真童舎 中村真也氏



まちづくり設計舎 長澤英樹氏



園長 落合洋子氏



3,4,5歳児の保育室の床は無垢材を使用。素足が靴下のみの子どもが多い。



拭き掃除がしやすいよう床にリノリウムを使用した低年齢児の保育室。



OMの集熱ガラスを搭載した園舎を南側の大学建物から写す。計画的に果樹や花が植樹され、四季を楽しむ雑木の森に囲まれた園舎。



中庭をコの字型に囲む園舎。保育室から中庭がよく見通せる。

千葉県北西部に位置する流山市は、都心から25km圏内であることから、住宅都市として発展している地域です。駅付近には続々と大規模マンションが建てられ、子育て世代の人口増加に比例して、保育園の需要も増えています。

流山市はこうした状況に対処すべく、中学校・高校・専門学校・大学のある学校法人江戸川学園に、保育園の開設を要請しました。昭和6年に高等女学校として開校した総合学園の江戸川学園は、市の要請に応じて社会福祉法人喜働会を立ち上げ、2011年4月、「えどがわ森の保育園」を新設しました。

えどがわ森の保育園は江戸川学園木キャンパスの中、かつての職員駐車場の敷地に建てられています。森の保育園という名前からイメージされる通り、建設当時植樹した木々が大きく成長し、木造平屋建ての園舎をやさしく包み込んでいます。

「もともとは江戸川大学の総合福祉専門学校で、保育士を養成する科の教員をしていまして、保育園建築にも夢がありました」と話すのは、園長に任命された落合洋子氏。落合氏は都内で保育園の園長をしていた経験や、23区の公立保育研究会の役員を務めていたことから、

都内の保育園の実情を熟知していたといえます。屋上に園庭がある保育園、コンクリート造の保育園などで生活する子どもたちの様子を見るにつけ、「木造平屋建ての保育園で子どもたちを育てたい」との夢が膨らんでいきました。さらに、保全生態学が専門の同僚園大学教授の自邸で、OMソーラーの快適さを知ることにより、OMソーラーの導入も夢に加わって、新設する保育園の建物は「木造・平屋・OMソーラー」の三つを柱としました。

新保育園の設計は、その教授邸を設計した、ちば山真童舎一級建築士事務所代表の中村真也氏に依頼。千葉の木を使った家づくりを手掛ける中村氏は、「木造平屋建ての保育園を建てるというお話をいただいた時は、まさに僕にぴったりのではないかと思いました」と快諾し、保育園設計の実績がある、株まちづくり設計舎の代表取締役長澤英樹氏と協力して、新保育園の設計に当たります。

保育園の構造は、中村氏がOMの家設計で培った「ちば山田の字の家」の考え方を応用しました。これは、住宅中央に太い大黒柱を立て、外周部に耐震壁を配すことで内部を可変にするという構造を持つものです。一つの保育室を二軒の家で構成し、それを連続させ、高

低差が138cmほどあるすり鉢状の
庭を、コの字型に囲みました。

園児がのびのびできる大きな空間を
創出する構造に加えて、通常であれば大
断面集成材を使うところを、「田の字の
家」を応用することで無垢の流通材の使
用が可能となり、千葉県産のスギとヒノ
キをふんだんに使った、より家に近い感覚
の温もりのある空間になっています。

子どもの発達に合わせた 行動学を設計に反映させる。

「子どもたちの多くはマンション住まい
で、木造の家というのを知らないんです
ね。小さい時の体験はすごく大切なもの
ですから、せめて保育園の環境は木造に、
という思いがありました」という落合氏。
素足や靴下だけで走り回る子どもたち
の姿を、目を細めて見つめ、さらに職員室
からは子どもたちの様子を見渡すことが
できる、平屋建ての良さも実感してい
ると話します。

「子どもには年齢による発達の違いが
ありますので、年齢に応じた設計をお願
いしました」という落合氏は、低年齢の子
どもたちの保育室の床には、拭き掃除が
簡単に出来るようリノリウムを使い、トイ

レでは介助が必要な年齢と自分で用が
足せる年齢とで、便器の向きや取っ手の
位置を変えるなど、細部に渡り長澤氏と
何度も検討しながら、こどもの行動学を
活かした設計を依頼しました。

こうして設計から一年弱で引き渡しと
いうタイトなスケジュールの中で、建設に携
わった多くの人々の協力により、えどが
森の保育園が完成しました。開園に向け
た入園説明会が開かれたのは、東日本大
震災の翌日の3月12日のことでした。
「園舎自体は職員のロッカーが少し動いた
程度で全く被害はありませんでしたが、
電車が止まるなどして保護者の皆さんが
説明会に来るのが大変だったようです。
それと、OMで外気を取り入れているのが
心配だったので、線量計で計測したので
すが、室内は全く問題はありませんでし
た」とホッと胸をなで下ろします。

それより驚いたのは、保護者の皆さん
の反応だったといいます。「自然の木を
使っていますので、穴とかひび割れとか当
然あるわけですが、子どもが指を突っ込ん
で危ないのではという指摘が入園後2カ
月ぐらい続きました。けれども3ヶ月ぐ
らい過ぎた頃にはそれもびつたりと無く
なり、『木ついでいですね』というふうに変
わっていききました」と当時を振り返りなが

調整池を兼ねた高低差138cmほどのすり鉢状の園庭。



住宅設計の技術を応用し
温もりのある空間を実現した
「えどがわ森の保育園」。

ら笑います。

OMについても、「保護者の皆さんは太陽の光で発電できるのは知っているようですが、太陽熱を暖房に使えることは知らなかったようで、OMの説明をすると、『自然のエネルギーを使うなんて、いいですね』と喜んでいらつしやいます」と満足そう。

木造の平屋建てにOMソーラーを導入

したえどがわ森の保育園。「保育園、というよりも、家を少し大きくした中で子どもたちが生活している、と考えていただければいいのではと思います。この保育園では本当に子どもがのびのびしているように感じますし、先生たちも心に余裕が生

まれているように思います。私はよくどんな保育園がいいですか、と聞かれるのですが、人が人を育てる場所ですから、人を見て下さいとお答えしています。この保育園は子どもたちにとつてのびのびできる場所であり、職員にとつても、間違いなく働きやすい職場であると思います」。

まれているように思います。私はよくどんな保育園がいいですか、と聞かれるのですが、人が人を育てる場所ですから、人を見て下さいとお答えしています。この保育園は子どもたちにとつてのびのびできる場所であり、職員にとつても、間違いなく働きやすい職場であると思います」。



玄関の外壁にも木が使われている。



天井を覆わず開放的な空間。ハンドリングボックスが見える。



小さな便器が並ぶ3、4、5歳児のトイレ。



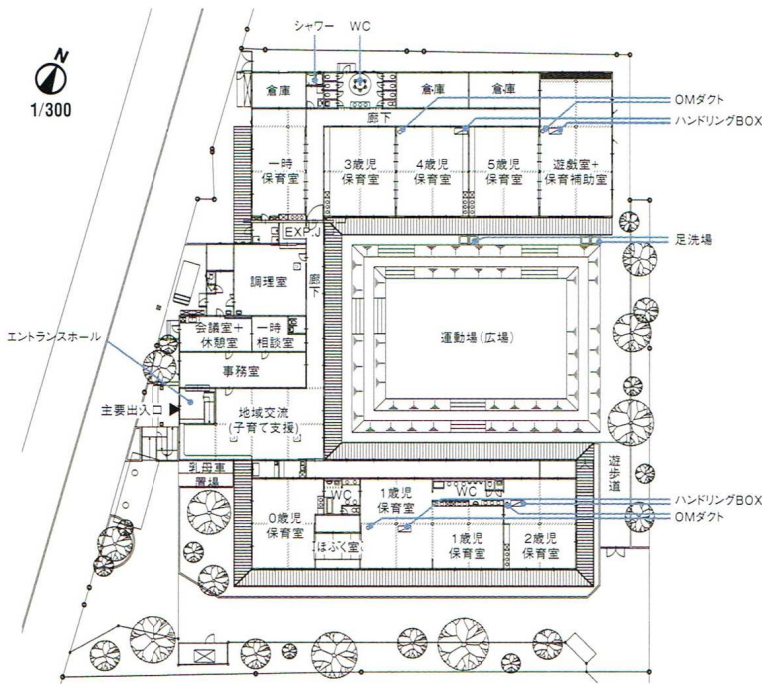
木の香りと太陽の温もりが迎える玄関。



愛らしいロゴで書かれた保育園の看板。



音符をデザインした園のマークのある防火壁。



名称／社会福祉法人 喜働会
えどがわ森の保育園
所在地／千葉県流山市
設計／まちづくり設計舎 長澤英樹＋
ちば山真童舎 中村真也(元松村工務店)
雑木造園設計
高田造園設計事務所 高田宏臣
施工／株式会社 平山建設
(OM工事:タケワキ住宅建設)
建物概要／木造平屋建て(防火構造建築物)
敷地面積／2956.19㎡
延床面積／1205.71㎡
竣工／2011年3月
写真／上田 明



OMソーラー株式会社

〒431-1207 静岡県浜松市西区村柳町4601
TEL.053-488-1700(代) FAX.053-488-1701
http://omsolar.jp/

※本印刷物の全部または一部を無断で複写・複製転写等することを禁じます。
2013.9.1